

【第6学年団】

＜令和元年度研究主題＞

あしたへつなぐ，わたしたちにできること・・・

—持続可能な社会の実現に向けて，子ども達の“自分ごと化”をすすめ，
深い学びを育む大森第一小のSDGs—

＜研究仮説＞

地域に根ざした教育活動に取り組み，主体的・対話的で深い学びを実践することにより，郷土愛や自己肯定感を高め，持続可能な社会を担う児童を育成できるであろう。

＜学年テーマ＞

地域や社会の未来を想像し，「自分ごと化」する学習活動の工夫
～課題解決に向け，多面的・総合的に考え行動する～



1. 目指す児童像

○自分たちの課題や可能性に気づき，自分のこととして追究する子 【ESDの視点】

自立

- 自他の考えの相違点に気づき，自分の課題を見直せる子 (批判)
- ◎問題解決への見通しをもち，行動を起こせる子 (未来)
- 学んだことを関連付け，多面的・総合的に考え行動する子 (多面)
- 自分の課題や可能性に進んで取り組む子 (参加)

○社会との関わり合いや友達との学び合いを通して，自分の考えを広げたり深めたりする子

共生

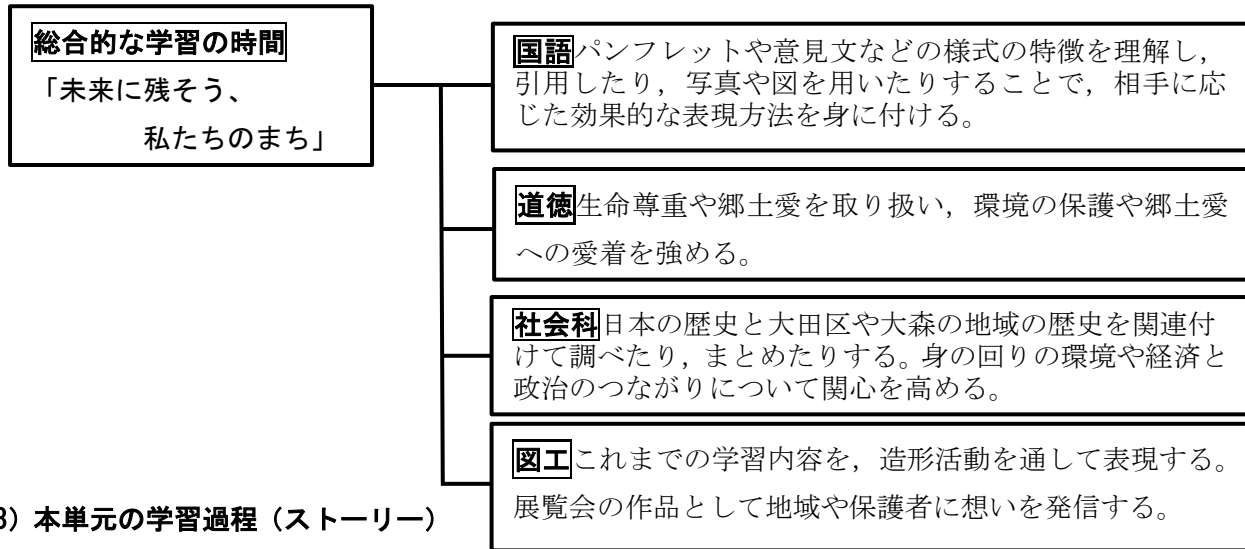
- ◎自他の考えの相違点を理解し，互いに伝え合う子 (伝達)
- 互いに協力し合い学び合い，問題解決する子 (協力)
- 社会と自分との関わりを理解し，学びに生かせる子 (関連)
- 関わり合いや学び合いに進んで取り組む子 (参加)

2. ESD とカリキュラムデザインとの関連

(1) ESD の構成概念と重視する能力・態度

持続可能な社会づくりの構成概念							ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度							
I 多様性	II 相互性	III 有限性	IV 公平性	V 連携性	VI 責任性	VII その他	① 批判的に考える力	② 未来を予測して計画を立てる力	③ 多面的・総合的に考える力	④ コミュニケーションを行う力	⑤ 他者と協力する態度	⑥ つながりを尊重する態度	⑦ 進んで参加する態度	⑧ その他
【多様】	【相互】 ○	【有限】	【公平】 ○	【連携】	【責任】 ◎	【他】	《批判》	《未来》	《多面》	《伝達》	《協力》	《関連》	《参加》	《他》
							《自立》			《共生》			《自立・共生》	
								◎	○	◎		○		

(2) 本単元と他教科との関連



(3) 本単元の学習過程 (ストーリー)

学習過程	学習内容
① つかむ 総合 SDGs とつながる大森の町	東京 2020 大会を一つの契機に、国内外から多くの人々がこの地域を訪れることが予想される。5 年間の地域教材を扱った学習内容を SDGs の視点から振り返り、改めて自分の生まれ育った地域の歴史や文化に目を向けさせる。
② 調べる 国語 ようこそ私たちの町へ	地域の魅力や特色をアピールする方法について考え、課題を設定する。取り上げる題材についてインタビュー活動を行い、情報を集める。集めた情報を分類・整理し、伝えたい内容の優先順位を考える。
③ 考える・まとめる 国語 学級討論会をしよう 未来がよりよくあるために 社会 私たちの生活と政治 総合 未来に残そう、私たちの町①	産業・歴史・文化など様々な面から地域の魅力や特色に触れてきた。それらの中から、未来に残したい地域の特徴や、未来に語り継ぐためにできる具体的な行動について自分の考えをもつ。主張の異なるグループ間で討論を行い地域の良さだけでなく課題に目を向けさせていき、理解を深める。討論会では外部人材を招聘し、地域創成に対する願いを聞いてもらい、活動を価値づけてもらう。地域のステークホルダーからの助言を受けることで、発信活動への意欲を高める。
④ 発信・行動する 国語 未来がよりよくあるために 図工 未来の大森のまち 総合 未来に残そう、私たちの町②	学習内容を発信するために、国語科の教材で扱われている「パンフレット」や「意見文」の作成に取り組む。相手を意識した発信活動になるよう、発信方法については児童から生まれる多様な考えを大切にしていきたい。自分たちの願いを実現するために、外部機関と連携したイベント(清掃ボランティア・チャリティバザー等)を企画し、社会へ参画する経験をもつ。
⑤ 活動を振り返る 国語 今、私は、ぼくは	卒業を前に、これまでの小学校生活や自分の将来について考えスピーチをする。持続可能な社会の担い手として将来世代に責任あるビジョンをもつ。

3. 研究主題との関わり

本校の研究主題を受け、第6学年では、研究仮説を実証するために、以下のようなESDの視点に立ち学習を組み立てた。



5年間の学びの振り返り

大森のよさ
特徴・未来像

個の学びを
話し合いに生かす

持続可能な学び

自分のこととして
学び行動する



(1) ESD (持続可能な発展のための教育) の視点に立った学習活動の捉え方

本校では第1学年の学習から地域と関わり、地域を教材にして学びを組み立ててきた。第6学年では、過去5年間の地域を題材としてきた学習を振り返り、また小学校生活最後の1年間の学習を関連付けた上で、私たちの住む「大森のまち」のよさや課題は何か考えさせる学習を展開したい。

そのために次の4つの能力・態度を児童に身に付けさせることで、研究主題に迫ることができると考えた。

「② 未来像を予測して計画を立てる力」

1年生から5年生まで学習してきたことや、地域の歴史・現在の様子について振り返り、そこから児童一人一人が「大森のまち」のよさや特徴について考えることで、その未来像をもてるようにしたい。そこで1年後に迫った東京2020オリンピック・パラリンピックまでと、11年後の2030年のまちの未来像を考え、この間に自分が何を
する
のか、何ができるのか考えるきっかけとしたい。

「③ 多面的・総合的に考える力」

ESDカレンダーに則り、児童が教科等横断的な学習を進めるにあたって、個人の学びをしっかりと行わせることが大切である。児童一人一人がそれぞれの教科から学んだ知識を話し合いに生かすことで、互いの課題について主体的・対話的な話し合いが生まれ、深い学びができる
と考える。

「④ コミュニケーションを行う力」「⑥ つながり を尊重する態度」

地域で育つ子供たちが、互いにコミュニケーションを取り、この学習を通して得るものこそESDの本質であると言える。地域から学んだことを、自分なりに咀嚼して、学習の最後に表現・発信するなど再び地域へと返すサイクルになることを実感させたい。また、学習を通して地域とつながっている第6学年の児童の姿を、下学年の子供たちにも発信し、持続可能な学びへとつなげたい。

(2) 学年が考える“自分ごと化”

昨年度は、海ゴミの学習を通して学んだことから自分でも何か行動できることがあることを経験した。今年度の学習でも、今まで学んできた内容は互いに関連しており、自分たちが得た学びは必ず次の学びにつながることを、自分のこととしてとらえた学びから生まれる行動・活動は実現への第一歩となることを実感させたい。

(3) 深い学びを実現するSDGs

以上述べてきた児童の学習活動は、次の2つのSDGs「11 住み続けられるまちづくり」「17 パートナースHIPで目標を達成しよう」へとつながることをつかませたい。自分たちが生まれ育った町に対し関わり続けること、学び続けることによって、いつまでも安心・安全に、そして誇りをもって住み続けることができる町になることを伝えたい。

また、そのためには自分一人だけではなく、友達や家族、地域の方々や各ステークホルダーとの人間関係・協力関係が必須であることも理解させたいと考える。

4. 研究内容・方法（研究主題に迫るための学習活動の工夫）

大田・大森の町のよさ

1964年オリンピック

2020年オリンピック

未来の町づくり

地域教材とSDGsとの結びつき

公教育の責任

『学びのハンドブック』

思考の可視化
児童の変容

こども町づくり会議

（1）教科を横断した単元設定

単元の導入場面では国語科「ようこそ私たちの町へ」の学習を取り入れ、東京2020大会を目的に地域を訪れる人々を想定して、「大田・大森のまちのよさ」を考え、パンフレットづくりを行う。オリンピック・パラリンピック教育を通して自分達が生活する大森の町の変容について考える学習活動を行う。高度経済成長期を経て1964年に東京オリンピックが開催され、自分達が暮らす大森の町がどのように変化したかを知る。2020年に開催される東京大会ではどのような変化が起こり、さらにその先の未来どのように自分達が地域と関わることができるかを考えさせる。

2学期以降は未来に残したい地域の伝統・産業・自然などを視点に「未来の町づくり」をテーマに学習を進める。ここでは社会科単元構成を工夫し、「私たちの生活と政治」を絡め、防災やユニバーサルデザインの視点を児童にもたせたい。

（2）6年間の学習とSDGsの関連

2030年までに国連加盟国193か国が達成目標として掲げたSDGs（持続可能な開発目標）。各国政府、企業、地方自治体においてはSDGsの視点を取り入れ様々な施策や活動を展開している。SDGsの達成に設定された2030年は児童が本格的に社会に参画し、持続可能な社会づくりの担い手として活躍が期待される時代である。公教育においても、SDGsの視点を学習活動に取り入れ、学校での学習が社会や地域とどのように結びついているかを体感することは大変意義のあることと考える。

児童は5年生までに「海苔づくり」「麦藁細工」「地域の寺社祭礼の歴史」「地域安全マップづくり」「人工海浜ふるさとの浜辺とマイクロプラスチック」など地域資源を教材とした学習を積み重ねている。今までの学習を振り返り、SDGsの視点をもって、振り返ることで地域の魅力や課題について掘り下げて考えを深められることを期待する。

（3）思考ツールの活用

本校で開発した『学びのハンドブック』と国語の教科書で取り扱われる「考えを助ける図表」を活用し、児童の考えや思考の変容を可視化していく。課題設定、情報の分類・整理など必要な状況に合わせて、児童の思考を助けるツールとして提示していく。『学びのハンドブック』によって児童自身が「学び方」を学ぶことにより主体的で対話的な問題解決を実践していく。

（4）外部施設や地域と連携した、学びの発信・実践活動

総合的な学習の時間では、地域の素材や学習環境を積極的に活用することが期待されている。そこで、課題設定の導入場面では、本校の卒業生や地域の商店や寺社、海苔の資料館の関係者にインタビュー活動を行い、情報収集をする。2学期からは収集した情報を深化させるための手段として『こども町づくり会議』と称し「学級討論会」を行う。討論会には地域の関係者を招聘し、ともに地域の未来を考える活動を展開していく。単元のまとめである参画の場面では、本校のPTAと連携した、チャリティバザーや、展覧会の共同作品として未来の大森のジオラマを作成するなどの活動を計画していきたい。社会科の学習を通して、区政への参画を経験させるために、大田区議への意見文の提出を視野に入れる。発信参画の活動を繰り返すことで、自分自身の可能性に気づき、自己肯定感の高まりを期待している。

5. 学習指導案

第6学年 国語科学習指導案

第6学年1組 男子12名 女子15名 計27名

授業者 柄澤 亮

(1) 単元名 「ようこそ、私たちのまちへ」

大単元「未来に残そう、私たちのまち」【総合】

(2) 単元の目標

〔自立〕・地域の良さや課題を理解し、必要な情報を収集しながら発信に向けての見通しをもつ。

〔共生〕・友達や地域の方と関りながら考えを深め、問題解決に向けて行動する。

(3) 児童の実態

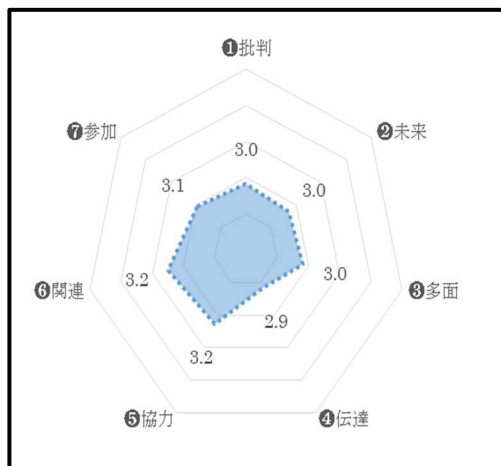
(1) オリンピック・パラリンピックに関する設問

- | | |
|--|-----|
| ① 東京2020大会の開催が楽しみである。 | 77% |
| ② 東京2020大会で応援したい競技や選手がいる。 | 60% |
| ③ 2年後の東京2020大会にかかわりたいと思う。 | 41% |
| ④ 東京2020大会が開催されることで大森の町は変化すると思う。 | 53% |

(2) 地域に関する設問

- | | |
|--------------------------------------|-----|
| ① 「大森・大田」は、暮らしやすいと思うか。 | 95% |
| ② 「大森・大田」は、自分の町として好きか。 | 92% |
| ③ 普段近所の人にあいさつをするか。 | 83% |
| ⑦ おとなになったときもこの町に住みたいか。 | 50% |
| ⑨ 大森で海苔が生産されなくなった理由を知っている。 | 53% |

アンケートの質問①の結果から、東京2020大会の興味・関心は概ね高いことがわかる。しかし、大会にかかわりたいと答えた児童の割合は41%であった。興味や関心はあるが、自分が参加・参画しようという意識は低いという結果となった。また地域を愛する「心」は育っているものの、地域をよりよくしようとする「力」に関しては高めきれていないことが見て取れる。地域との関わりをもつことはできているものの、地域の未来を考えるまでは至っていないことが分かる。昨年2月に実施した『ESDで重視する能力・態度の高まりを見とるアンケート調査』の結果から、第6学年の児童の実態として「④コミュニケーションを行う力(伝達)」の数値が



全体的に低い傾向が見られる。5年生の「海ごみ調査隊」の学習では、「ESD集会」や「地球温暖化コミュニケーター」「ESDわくわくワークショップ」など様々な場面で自分たちの活動を伝える経験を積み重ねた。児童が情報を発信、伝達することを意識できるよう、今回は国語科の単元を意図的にカリキュラムに位置付けている。

今回の学習を通して地域の自然や歴史・行事等に関心をもって自分達が暮らす町を見つめ直し、多様な視点から物事を捉え、主体的に課題解決に向かう態度を育てていきたいと考え本単元を設定した。そして、自分が暮らす町のよさを感じ、伝え守っていこうとする気持ちを育んでいきたい。また、それらとともに、オリンピック・パラリンピックの意義や国際感覚を身に付けさせたいと考えた。

(4)単元の評価規準

第6学年 2軸 ESD		ア 国語への 関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 書く能力	エ 読む能力	オ 言語についての 知識・理解・技能
		国語に対する関心をもち、国語を尊重し進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えを豊かにして、相手や目的に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えを豊かにして、相手や目的に応じ、筋道を立てて文章に書く。	目的に応じて読み取ったり読書に親しんだりする。	表現及び理解の能力の基礎となる発音、文字、語句、文、文章について理解し、習熟している。
自立	① 批判	よりよい構成や記述の仕方を考えている。	自分の考えやその根拠をもち、比べながら聞いている。	自分の考えが相手に伝わるように表現している。		
	② 未来	自分たちが住んでいる町のよいところや特色について自分の考えをもっている。	自分の課題達成のために必要なことは何か考えながら聞いている。	自分の作成物に使う資料の効果を考えて用いることができる。		
	③ 多面			書く内容を決める際、培った知識を生かしてアイデアを出している。	集めた情報を吟味し、取捨選択している。	
	⑦ 参加	話し合いの内容に興味をもち、進んで参加しようとしている。				
共生	④ 伝達	互いの意見の相違点に興味をもち、積極的に話し合いに参加しようとしている。				
	④ 伝達		自分の課題に沿った質問を考えたり話したり聞いたりしている	友達の作成物の内容や表現について、感想を伝えられている。	表現の効果を考えながら、友達の文章を読み助言している。	相手や目的に応じた言葉を使っている。
	⑤ 協力		話す順序や進め方、対立点の調整の必要性を理解し、話し合おうとしている。	作成に必要な情報を協力して集め、表現しようとしている。		
	⑥ 関連	学んだり調べた内容と、話し合う内容を関連させて話し合いに参加しようとしている。	既習事項を関連させて聞いたり話したりしようとしている。	教科等を広く関連させて表現しようとしている。		

(5) 学習活動の過程

過程	時	主な学習活動
つかむ	1 ～ 5	総合 SDGs とつながる大森の町 東京 2020 大会への関心を高め、1964 年オリンピックから地域の産業や文化、自然や住環境がどのように変化したかを知る。
調べる	6	国語 「ようこそ私たちの町へ」 自分の町の好きなところを考え、町のよいところや特徴について話し合う。
	7	パンフレットを集め、そこにどのような情報が書いてあるかを調べる。
	8	紹介したい町の良いところを決め、情報を集める。
	9 本時	集めた情報を共有し、ほかのグループと話し合いながら気付きを深める。
	10	情報を整理し、取材をする計画を立てる。
	11 12	地域の人材を学校に招き、グループ毎にインタビュー活動を行う。
	13	取材して得た情報を整理・分類して、発信活動（ESD集会）に向けて構成を練る。
発信①	時間外	ESD集会「ようこそ私たちの町へ」第1次報告会 1964 オリンピック前後の地域の変化、現在の大森の町の魅力の発信、今後の活動展開
考える・まとめる	14	社会 わたしたちの生活と政治
	15	地域で暮らしている人たちの願いと政治のつながりについて関心を高める。子育て
	16	支援や震災復興に対する政治の役割や仕組みを学び、自分たちの地域に置き換えて考
	17	え、課題を発見する。
	18	国語 「未来がよりよくあるために」
19	過去や現在を踏まえ、自分の町の未来について考える。未来に保存すべき過去の遺	
20	産・伝統・文化・防災・福祉・子育て等、課題を設定する。	
21	総合 未来に残そう、私たちのまち①	
22	国語 「こども町づくり会議（学級討論会）」	
23	国語科「学級討論会」の手法を使って、人材を招聘した「こども町づくり会議」を	
24	行う。テーマごとにグループに分かれ、地域の方を交えて意見交換会を行い、課題を	
25	解決する方法について考えを深める。	
発信② 行動する	26	国語 「ようこそ私たちの町へ」 取材活動、意見交換会で得た情報や材料を吟味し、パンフレット、意見文等の構成
	27	を考え、目次作成と割り付けをする。
	28	発信する相手を意識して、表現を工夫しながら下書きを作成する。
	29	清書して作成物を仕上げる。
	30	総合 未来に残そう、私たちの町②
31	児童の願いから、地域に参画するイベントを企画する。環境の保全、社会奉仕の視	
32	点から、本校 PTA の組織と連携し、地域の清掃活動や、チャリティバザーの企画・運	
33	営を行い、社会参画の経験を積み重ねる。国語科の学習で作成した成果物を大田区議	
34	や海苔の資料館などの関係機関に提出しする。	
35	図工 「わたしたちが創る 未来のまち」	
36	過去・現在・未来の視点をもちながら大森の町のジオラマを作成する。ものづくり	
37	を通して自分たちが考えてきた、未来に残したい、語り継ぎたい地域の伝統・文化・	
38	産業・自然を表現する。	
振り返る	40 ～ 45	国語 「今、私は、ぼくは」 卒業文集の作成を通して、学習を振り返る。自分自身の将来にビジョンをもち謝恩会 で短いスピーチを行う。

(6) 本時の活動

①本時のねらい

【自立】 地域のよいところや特色について自分の考えをもち話したり、聞いたりすることができる。

【共生】 学んだり調べたりした内容と話し合う内容を関連させて話し合いに参加しようとしている。

②本時の展開【9/45時間】

	活動内容	・指導の留意点 ◎ESDの視点に立った指導 ◆評価												
導 入	1 これまでの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの設定した題材を確認するとともに、調査活動に向けて自分の考えをもっていることを確認する。 												
	2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">地域のよさを再発見するために話し合い，つながりを見つけよう</div>													
展 開	3 グループ内で情報を共有する <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">話し合いのポイント ①各グループのつながりは何か ②取材する相手や方法 ③質問内容や調査方法 ④グループ内での役割分担</div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の流れを掲示し、児童に活動の見通しをもたせる。 前時までに、グループで必要な資料を用意し、自分の意見に自信をもって話し合いに参加できるように、ワークシートに個人の考えを記入させておく。 共有した情報から、新たな気づきや疑問をワークシートに追記させる。 ◆地域のよいところや特色について自分の考えをもち話したり、聞いたりしている。 【自立（未来）】 異なるテーマで話し合いを行うことで、それぞれのテーマ同士が関連していることに気付かせる。 ◎他のグループとの情報交換を通して、自分達のグループが設定した題材とどのように関連しているかを意識できるように声をかける。 【⑥ - つながりを尊重する態度（関連）】 ◆学んだり調べた内容と、話し合う内容を関連させて話し合いに参加しようとしている。 【共生（関連）】 												
	4 グループのメンバーを入れ替え，情報交換をする。(6グループ仮) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">羽田空港</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">町工場</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">近隣寺社の祭り</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">D</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域の史跡（本門寺・貝塚）</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">E</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大森第一小学校</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">F</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">名産品（海苔・麦・グルメ）</td> </tr> </table> </div>		A	羽田空港	B	町工場	C	近隣寺社の祭り	D	地域の史跡（本門寺・貝塚）	E	大森第一小学校	F	名産品（海苔・麦・グルメ）
	A		羽田空港											
B	町工場													
C	近隣寺社の祭り													
D	地域の史跡（本門寺・貝塚）													
E	大森第一小学校													
F	名産品（海苔・麦・グルメ）													
5 学習のまとめを行う。 今日の話し合いを通して、分かったことや考えたことをまとめましょう。														
ま と め	6 次時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返り、次時からの調査活動に向けて意欲を引き出す。 												

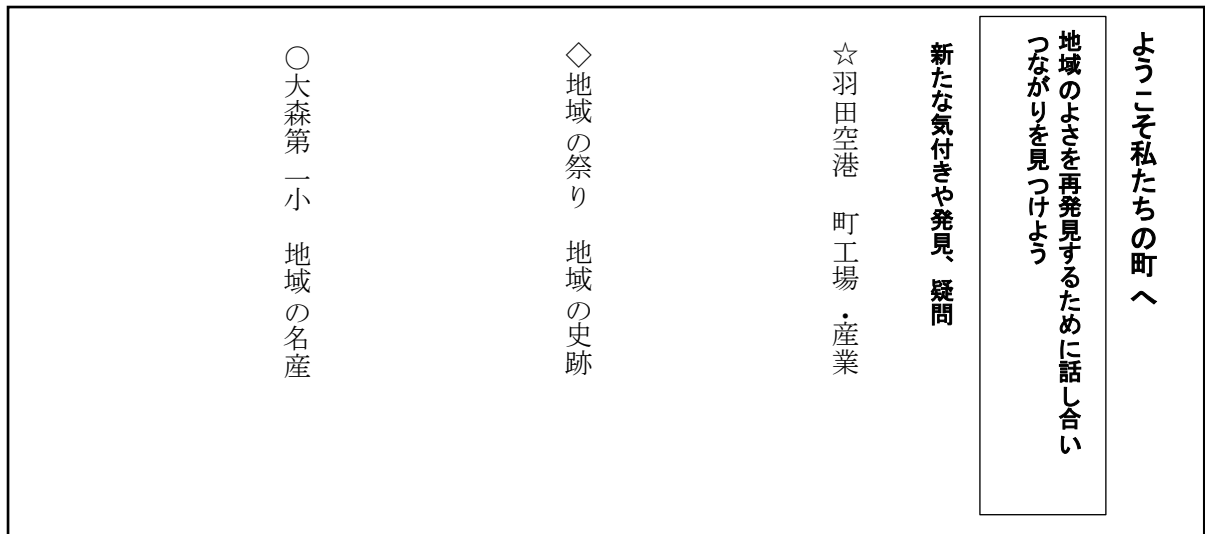
③本時の観察の視点

【自立】 必要なことは何か考えながら、話したり、聞いたりすることができていたか。

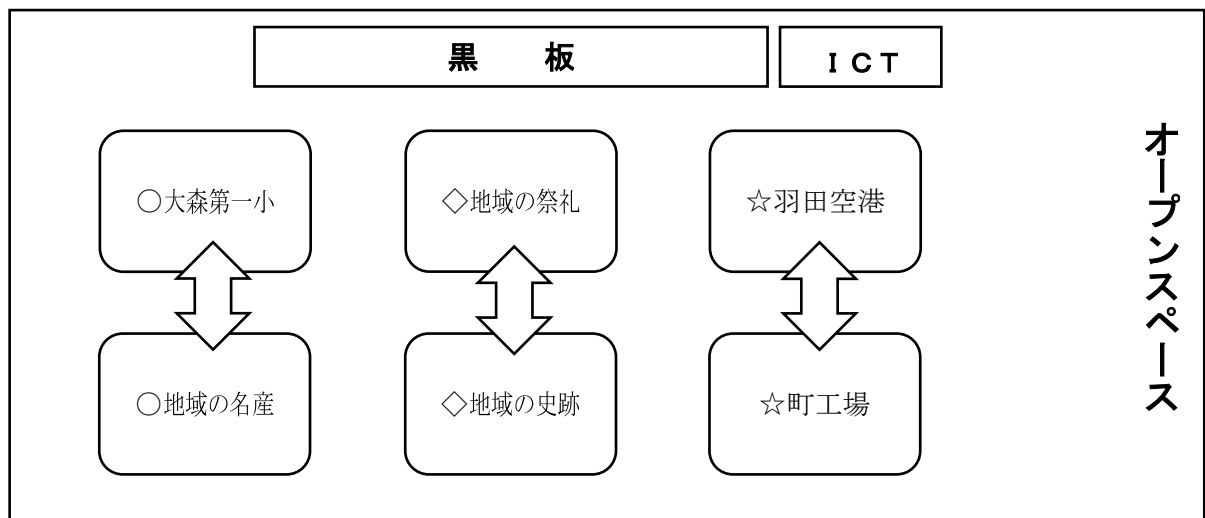
【共生】 互いの意見のつながりに興味をもち、積極的に話し合いに参加することができていたか。

0

④板書計画





⑤場の設定



⑥ワークシート・資料

【オリパラ、地域の魅力に関する実態調査】


東京 2020 大会事前アンケート

 TOKYO 2020
 6年組 番

・オリンピック・パラリンピックについて質問を答えなさい。

【1】 今までにオリンピック・パラリンピックをテレビで見たことがある。

はい ()
いいえ ()

【2】 東京2020大会で応援したい競技や選手がいる。

はい ()
いいえ ()

【3】 東京2020大会で新たに競技として加わったスポーツを知っている。

はい ()
いいえ ()

【4】 東京2020大会を見に行きたい。

はい ()
いいえ ()

【5】 東京2020大会の開催が楽しみである。

はい ()
いいえ ()

【6】 東京2020大会が開催されることで大森の町は変化すると思う。

はい ()
いいえ ()

【7】 約1年後の東京2020大会にかかりたいと思う。

はい ()
いいえ ()

【SDGs とつながる大森の町 単元1～5時使用】

SDGs とつながる大森の町
 6年組 【 】

◎SDGsについて考えよう！学校の学習や自分の生活にどのよう関わっているだろう。


			
			
			
			
			
			
			
			
			持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals

◎私が気になっている、調べてみたいSDGsは 番です！


◎東京2020大会の成功とは、何だろう。

◎2030年(21～22歳)どんな社会、どんな地域になってほしいですか。


【ようこそ私たちの町へ 単元6時から使用】



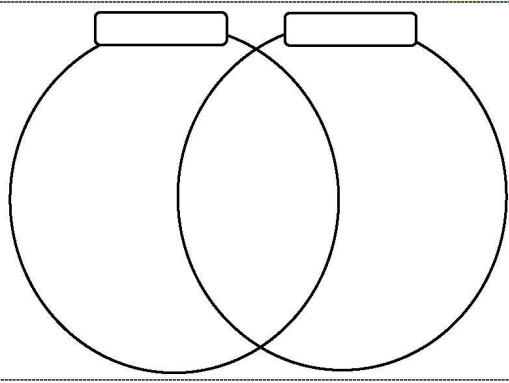
ようこそ私たちの町へ 6年組



【ようこそ私たちの町へ 単元8時から使用】



ようこそ私たちの町へ 6年組



【区内観光パンフレット 調べ学習で使用】



【開校140周年記念誌 調べ学習で使用】

